

【副会長ごあいさつ】

知識社会の基盤となる図書館を目指して

2021年度の県図書館協会の活動を振り返り、また今後の公共図書館のあり方について、一言述べさせていただきます。

県図書館協会の活動は、長引くコロナ禍により、読書活動スキルアップ研修会や県図書館大会が中止に追い込まれ、総会（5/7）も書面協議にせざるを得なくなったことは、誠に残念なことでした。一方、公立図書館（室）長及び業務担当者会（10/11）は、枕崎図書館のご尽力によりリモートで開催し、専修大学文学部野口武悟教授のオンラインによる講義を含め、有意義なものとなりました。また、県立図書館をはじめ、各自治体の図書館は、一部サービスの縮小はあったものの、地域社会における知の拠点として、その責務を立派に果たすことができたことを、嬉しくかつ誇りに思います。



鹿児島県図書館協会
副会長 井上 佳朗

さて、全国各地で、人口減少対策、高齢化対策、SDGs 実現、働き方改革や変化するライフスタイルへの対応などの課題が山積し、これらの課題に対処するため、知識基盤としての公共図書館への期待が高まっています。図書館は文化的基盤であることに加え、新たな価値やイノベーションを創出する産業的基盤としての役割が求められています。

鹿児島市立図書館では、2月2日から県内初の電子図書館サービスの運用を開始しました。今後、県立図書館における電子図書館サービスの強化にも期待したいと思います。同時に、デジタル化では置き換えることのできない印刷された書籍の価値を再認識し、デジタルとアナログが補完し合うハイブリッド型図書館の効果的な利活用のあり方を、提案していくことが求められると思います。

これからも県図書館協会での連携を強化し、他の都道府県に引けを取らない公共図書館の体制を築いて行くために、知恵と実践を積み上げていきたいと思っています。

最後になりましたが、県内各館のますますのご発展と関係の皆さまのご活躍を祈念いたします。